



平成25年 4月～ 7月の出来事

## ● 長野県での訓練生活 ●

私は4月より職場を離れ、青年海外協力隊の派遣候補生として、長野県駒ケ根市にある青年海外協力隊訓練所に入所しました。訓練所では、ボランティア活動について学ぶ一方で、隊員候補生同士の交流も深めることができ、たった70日間を大変密度の濃いものにすることができました。

私と同じ時期に駒ケ根訓練所で訓練を受けていた隊員たちは総勢196名、訓練終了後はそれぞれ35カ国もの国々へ飛び立ちました。国もさまざま、言語もさまざま、職種もさまざまな仲間たちが今、世界中で活動を開始しているところです。

## ● ブータンについて ●

さて、私は現在ブータンという国に、食品加工という職種で派遣されています。ブータンは北を中国、南をインドという大国に挟まれた大変小さな山岳国家です。面積は日本の九州とほぼ同じ、しかも人口は70万人と、なんと広島市よりも少ないんです。ちょうどヒマラヤの広い裾野に国があると考えてもらえばいいのではないのでしょうか。

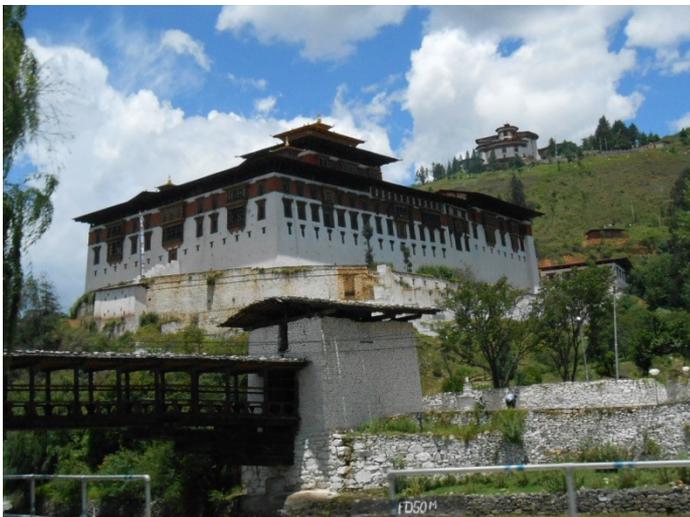
GAWAY DRUK=HAPPY BHUTAN  
という意味です。  
GNH (Growth National Happiness)  
を推進するブータンにあやかり、  
この名前にしてみました。





首都ティンプーは、近代化が進み、自動車もずいぶん多くなっています。携帯電話の普及もめざましく、ブータン人は皆スマホを持ち歩いています。しかし、建築には厳しい規制があり、全てブータンの決められたデザインに従った様式でないといけません。そのため、とても風情のある街並みになっています。

ブータンの各地には、チオルテンと呼ばれる仏塔が多数あります。これは首都にあるメモリアルチオルテンです。老若男女、朝な夕なこのチオルテンを時計回りに回って御利益を祈ります。どんなに小さなチオルテンでも、決して反対回りに歩いてはいけません。



さて、ブータンで忘れてはいけないのは、「ゾン」と呼ばれる建物です。「ゾン」はもともと要塞であり、政治的・宗教的な中心でもあり、各県にほぼ必ず一つ(あるいは一つ以上)設置されています。日本の城にも近いでしょうか。現在は宗教上の中心地としての役割が大きいように感じます。

写真はパロ県にあるゾンです。

自動車がずいぶん増えてきたブータンですが、この国に全くないものが一つあります。日本には数えきれないほどあるのに…。そう、それは信号機です。往来の激しい首都の中心地では警官が手振りて信号の役目を果たします。電気の供給が不安定なこの国では、信号機がある方が混乱を招いてしまうのかもしれないですね。

